

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市歴史民俗資料館
2	指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年（2017）4月1日～令和4年（2022）3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 30,747人（前年度比 110%） 平成30年度 27,842人 平成29年度 35,643人 平成28年度 33,955人</p> <p>《事業》 展示事業では年3回の企画展・特別展と年4回の季節展示を開催し、展示図録を2冊刊行した。調査研究事業では調査報告書、資料集を各1冊ずつ刊行し、62件4,668点の資料寄贈を受け入れた。普及啓発事業では年間約30回のイベントを開催し、仙台市内の小学校97校から6,704人の見学を受け入れた。</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 67,596千円 （64,361千円） （ ）は前年度決算額</p> <p>・ その他市が負担した費用 0千円 （0千円）</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 1,014千円 （1,201千円）</p> <p>・ その他収入 335千円 （519千円）</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 *利用者アンケートを令和元年12月に実施 *特別展企画展毎にアンケートを実施</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、歴史民俗資料の収集・保管、調査・研究、展示事業について職員が十分理解している。また展示事業及び講座等の普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上等の施設目的を達成している。今後は収集資料の増加に対応した整理・保管・活用といった一連の業務体制の構築が望まれる。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、開館状況も適切である。指定管理料も適切に執行され、個人情報の保護に対する体制も整っている。事故防止のための体制・事故発生時および災害発生時の対応体制も確立しており、事故防止対策についてはミーティングで情報共有を行っている。また、防災訓練は、地元町内会と協力して取り組んでいる。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物自体が仙台市指定有形文化財であることを踏まえ、関係課と調整しながら適切な施設の維持管理、安全性・快適性の確保が図られている。備品も適切に管理されており、仙台市環境行動計画に則り節電や節水などの省エネ、古紙等のリサイクルに取り組んでいる。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は適切であり、職員への教育・研修を随時行っている。ホームページやパンフレット等による利用情報の積極的な提供や利用者アンケートも実施している。また、サービス水準の維持のために館内での情報共有、苦情については館内で改善策を協議し、随時適切に対応している。アンケートで寄せられた意見についてもホームページ上で適宜公開のうえ回答するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また榴岡公園を利用して行うイベントには多くの近隣住民やリピーターが訪れており、施設の活動が地域社会や市民に普及し、定着している。地域の団体や関連する活動を行うNPOなどと連携したイベントも実施しており、こうした機会を通じて文化財の保存や貴重な資料の発掘につなげる等の事業を行っている。	12/12

三 評価総括

《指定管理者（仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営は施設所管課と協議を行いながら協定書に基づき適切に行った。展示室内のLED化や館内の温度調節に細心の注意を計り、効率的な展示環境を形成した。入館者数は30,747人で前年度を約10%上回り、秋には開館40周年記念の自主事業イベントを行ったことなども功を奏したとみられる。また、仙台市内の小学校97校6,704人の児童が授業の一環として団体で来館し、石臼挽き体験や行灯の明かりを見る体験学習は近隣市町村や近隣の学校からの評価も高く、のべ388回に及び、博学連携は前年同様に順調な状態といえる。</p> <p>資料の収集・整理・保管に関わる事業では資料の寄贈が64件4,668点にのぼり、資料の収蔵点数は92,000点を超えた。調査研究事業では日清戦争に従軍した写真師の記録写真を資料集として刊行し、一年を通じて行っている学芸員による調査活動や研究成果をまとめた調査報告書を刊行した。展示事業ではすべてオリジナルな企画展・特別展を3回開催し、収蔵資料の研究成果と継続して取り組む調査結果をわかりやすく紹介した。また、展示内容を詳述した図録を2冊刊行し、関連するイベント等を合計26回開催した。</p> <p>自主事業としては14回目を迎えた「れきみん秋祭り」を仙台市教育委員会と共催し、開館40周年記念イベントの内容も組み込み、2日間にわたり5,931人の来場者を数えた。仙台市内の伝統芸能である田植踊や鹿踊剣舞、お神楽に加え、宮城県内と東北地方のお神楽を紹介するイベントは広く東北の風土に根ざした文化を知ることができる、仙台市で行われる格好の野外イベントとして芸能を知る人々のあいだに周知されるようになった。</p> <p>今後も仙台の町の歴史と人々の暮らしを後世に伝える施設としての役割と使命を自覚し、仙台市の文化行政を担う拠点の一つとして、市民の皆さまの付託に応えられるよう職員一体となって取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>①資料の受贈・整理の取り組みについて、令和元年度は昨年度に比較して寄贈資料が増加している。世代交代が進んだ時代の要請を受け、近代仙台の暮らしに係る民俗資料、教育・軍事関係資料を積極的に収集する姿勢を評価する。一方、資料の台帳登録数は平年並みで、増加する寄贈資料に整理事業が追いつかない状況に置かれている。業務全体の見直しを図り、収蔵庫内の管理及び資料整理が進展するよう効率化・体制の強化を期待する。</p> <p>②展示・展覧会については市民の興味・関心に沿ったテーマや、資料館の建物と関連したテーマを設定しており、市民の教養の向上に資するものであった。特に開館40周年を記念した特別展「堤焼と堤人形展」では、仙台の伝統工芸品である堤焼・堤人形について、その作品の魅力に留まらず製作現場や用途、人々の暮らしとの関りなど全体像を紹介し、来館者より好評を得ている。企画展「戦争と庶民の暮らし5」は多角的に戦争を捉えた関連講座を5回開催するなど市民に学びの場を積極的に提供した。アンケートによれば4回以上のリピーターが多く、企画展のシリーズとしても市民に定着してきており、当館の地道な収集・展示活動によるものと評価する。</p> <p>③サポーターによるサポート業務は、適切な施設運営を推進する上で大きな助けとなっている。小学生の社会科学習見学においても展示解説などでサポーターが対応し、好評を博している。サポーターが市民と施設をつなぐ意義ある活動であり、サポーター側にとっても、昔のあそびなどを子どもに伝える活動を目的化することによって生涯学習活動の支柱としており、こうした市民活動を下支えする館活動が良好に運営されている。</p> <p>④学校連携では、地域の歴史と人々の生活について効果的な学習を行うことができるよう、展示内容や解説を工夫している。現在では市内小学校97校が利用しており、これまで学校教育との連携強化を図ってきた結果、生徒が郷土の歴史や文化に対する理解を深めることに貢献している。</p> <p>⑤自主事業については、開館40周年記念として「れきみん秋祭り2019」と「ありがとう40年 仙台の伝統芸能」の2回のイベントを実施し、仙台及び東北地方の剣舞・神楽・田植踊りの披露、仙台箏笛や遠刈田こけしなど伝統工芸職人の技の実演を行い、大勢の見学者を得た。歴民の野外イベントとして広く周知されてきており、この事業が観客や演者に伝統芸能および技術の継承・保存の大切さを伝える機会となっていることも評価したい。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課